

---

# 運命のアドリビュート

ういりー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

運命のアドリビュート

### 【Nコード】

N7256X

### 【作者名】

ういりー

### 【あらすじ】

世界には7つの属性がある。

火・水・風・土・雷・光・闇の7つ

この属性に選ばれたものはリビューター（属性師）と呼ばれ、凄まじい力を得るといふ。

そんなリビューターを目指す青年が1人修行に励んでいた。そのアドリビュートが引き起こす過酷な運命も知らずに……。

FC小説にも同タイトルで掲載しています。

## 第一章 出会い〜蒼白の炎〜（前書き）

初めまして、拙い文章ですが読んでいただけて幸いです。

ストーリーは何年も考えてどう形にしようかと考え

小説にしました。アドバイスなどあったらよろしくお願いします。

## 第一章 出会い〜蒼白の炎〜

「さあて！今日もリビューター目指して修行だ！」

それぞれ帰り支度を始めている教室内で桜井壬斗は叫んだ。  
もちろん教室内の生徒はそんな彼を訝しげな目で見ていた。

「ちよつと、壬斗！それ恥ずかしいから辞めつつっていつも言ってるでしょ?!」

声を荒らげて注意したのは幼馴染の如月椎菜だ。

「なんだよ椎菜！目標を大声で叫んで何が悪いんだ？」

壬斗は純粹に質問を投げかける。

そんな彼に答えたのは親友である大王司鎧だ。

「壬斗、リビューターになるには前の継承者から選ばれないといけないんだぞ？要は努力じゃどうにもならないのさ」

周りの生徒も笑っている。

だが壬斗は顔色一つ変えずに言う。

「そんなことは知ってるさ、俺は諦めないっただけだ！」

壬斗の瞳は曇りなく真意を語っていた。

それは周りの生徒に本気を伝えるには十分な程に。

彼は思い出したかのように。

「そうだ！学園の近くに空洞を見つけたんだ！一緒に来ないか？」

しかし反応は鈍い。

「あたしはパス、家事の手伝いがあるし……。」

「俺も無理だな、お前の修行に付き合う前に自分の家で修行だしな」

椎菜はともかく鎧に至ってはこの聖アトリビュート学園を創設し学園が存在する属性都市を作り上げた大王司グループの社長の孫だ。当然、学業や武道で毎日忙しいらしい。

「まあ俺一人でいくよ……」

壬斗は寂しく呟いた。

「無茶しちゃダメよ！いつもどこか怪我するんだからね」

壬斗は椎菜の言葉に手をふり教室を出た。

その修行場は入口を見つけるのは困難だが学園から数分の場所に存在していた。

薄暗い空洞には何か導かれるものを壬斗は感じていた。

「本格的だな、魔物が巨大生物は居てもおかしくないぞ」

属性学園の外側には属性のエネルギーによって肥大化した生物が闊歩している。

しかし都市内では警備システムが作動されており、まず遭遇することすらない。

学園の生徒には教科書でしか見ない存在だ。

そんな未知の体験があると信じ空洞へと足を踏み入れた。

薄暗い空洞を進むと少し広めの場所に出た。

視界はあまりよくないが鉱石のおかげか存在を確認できる程の明度はあった。

そしてその視線上で蠢く影が一つ……。

「こいつは当たりだな」

それは体長50cm程度のバッタのような生き物だ。  
この空洞に流れるエネルギーによって肥大化したものだろう。  
軽視できないが壬斗は落ち着いていた。

「このために修行してきたんだ、なんてことはない！」

言い聞かせるように壬斗は用意していた訓練用の長剣を抜く。

その刹那、魔物とも呼べる生物の脚部に力が入るのがわかった。  
壬斗も直ぐ様構える。

直後魔物は飛びかかる、予想を上回る速さで

「早っ……!!」

壬斗はすんでかわすが、あまりの速さに反応が遅れ左腕を擦る。

「成程、実戦こええ」

その左腕からは軽傷だが血が滲む。  
痛みを余所に魔物の位置を再び捕捉し直す。

振り返ると魔物は狙いを定め、脚部に力が入る瞬間だった。

「この瞬間なら!!」

タイミングを見計らい壬斗は長剣の刃を真っ直ぐに突きつける。  
その魔物は同じ勢いで正面に突っ込んでくる。

結果、突き出した刃に頭からそのまま突き刺さる。

さながら、串に刺さったイワナ状態である。  
無論、魔物の息はない。

「うげえ、これが初勝利かよ」

そんなことを呟きながら魔物を抜き、放り投げた。  
実戦の恐怖と新鮮さを味わっていた自分がいた。

軽い興奮状態だ。

初勝利の余韻に浸っている彼にはその存在に気づけない

その『強大な存在』に。

瞬間、壬斗の体が轟音の後に宙に浮き壁に弾き飛ばされる。

「うあつ………？」

思考が追いつかない、背中に激痛が走り状況が整理できない。  
その方向を目で追ってみる。

それはいた、先程の魔物とは格が違う。

体長5mはある大物、見た目から察するに恐らく親だろうか？

『強大な存在』はジリジリと近づいてくる、それは自身の死への力  
ウントダウンと同意義だ。

今まで感じたことのない恐怖を感じる。

「嘘だろ、俺はリビューターになるんだ！死ぬわけにはいかない！」

無常にもカウントダウンは止まらない。

死が目前に迫り、巨体の豪腕が勢い良く降りかかる。



「くそおおおお！」

死を覚悟した瞬間、微かだが焦げたような臭いを感じた。その臭いは段々と強くなる。

そして潰され死んでいたはずの壬斗は『生きている』  
激痛が走る体を押しして状況を確認した。

『強大な存在』は青い炎に全身を焼かれ朽ち果てる寸前だ。

状況の変化の速さについていけない壬斗はある人影に気づいた。  
黒い長髪、全身黒づくめの美青年だ。

そして咳く

「貴様がリビューターに？冗談でも笑えんな」

そこで俺の意識は薄れていく

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7256x/>

---

運命のアドリビュート

2011年10月19日09時22分発行